

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3671500894
法人名	医療法人 悠穂会
事業所名	グループホーム向喜来の家
所在地	徳島県板野郡松茂町中喜来字郡恵278-7 (電話) 088-699-3855

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年8月23日

## 【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 5人, 非常勤 11人, 常勤換算 二丁目 6.5人 三丁目 6.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての	2階 ~	3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,250 円	その他の経費(月額)	共益費9,000円、その他実費	
敷金	有( ) 円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		— 円	

### (4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	16名	男性	6名	女性	10名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	5名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	4名		
年齢	平均 85.3歳	最低	78歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	芳川病院
---------	------

徳島県 グループホーム向喜来の家 1

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体の医療法人は医療、保健、介護、福祉などの幅広いネットワークを持ち地域医療を推進している。高齢者の暮らしを支え住み慣れた地域や家庭で過ごせることを念頭に置き、地域に根ざした運営を心がけている。事業所内では管理者や職員の認知症ケアの豊富な経験や介護に対する感性に支えられ、利用者同士の支えあいや職員との和が生れている。職員は利用者との関わりを重視して情報共有を徹底し、日々のケアに反映させサービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。事業所内はゆったりとしたスペースがあり、利用者が思い思いに過ごせるよう工夫して季節感あふれる家庭的な雰囲気づくりにも配慮している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である「家族による金銭管理状況の確認」は出納帳に家族の確認サインがとられ改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての事業所の役割について理解を深めていこうという姿勢が見られ、管理者を中心に全職員で取り組んでいる。課題などについても改善シートを作成して計画的に実施している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は利用者、家族、町担当職員、老人会会長、民生委員をメンバーとして2か月に1回開催されている。会議内容は事業説明や実施状況が報告されたり、運営などの取り組みに対する積極的な意見交換などが行われている。また会議のテーマや参加者からの意見をもとに有識者や専門家を招聘するなど、サービスの向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭出納の報告を文書で郵送している。また行事の様子やお知らせなどを掲載したクローバー通信を3か月ごとに発行している。意見などは普段の家族とのコミュニケーションの中で積極的に聞き出し、職員間で話し合い解決に向けて取り組んでいる。意見箱の設置や外部の相談窓口の掲示も行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は開設当初から地域との連携を重視して町老人会に加入し、行事などへ積極的に参加している。老人クラブ会員や地域ボランティアによる手芸、習字など利用者が行う諸活動の指導や地元中学生の職業体験を受け入れるなどして地域との交流が図られている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念に加え、職員間で話し合い事業所独自の理念を作り上げている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は常に理念を確認しあい、具体的なケアについての意思統一が図られている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は開設当初から地域との連携を重視して町老人会に加入し、行事などへ積極的に参加している。老人クラブ会員や地域ボランティアによる手芸、習字など利用者が行う諸活動の指導や地元中学生の職業体験を受け入れるなどして地域との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解して職員全員で自己評価に取り組むとともに、課題や外部評価結果の改善点については改善計画シートを作成し具体的に取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者、家族、町担当職員、老人会会長、民生委員をメンバーとして2か月に1回開催されている。会議内容は事業説明や実施状況が報告されたり、運営などの取り組みに対する積極的な意見交換などが行われている。また会議のテーマや参加者からの意見をもとに有識者や専門家を招聘するなど、サービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は行政と積極的に連携を取っており、担当者確認を取りながら事業運営を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭出納の報告を文書で郵送している。また行事の様子やお知らせなどを掲載したクローバー通信を3か月ごとに発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見などは普段の家族とのコミュニケーションの中で積極的に聞き出し、職員間で話し合い解決に向けて取り組んでいる。意見箱の設置や外部の相談窓口の掲示も行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどなく、顔写真を掲示するなど工夫している。また馴染みの関係づくりができるよう普段からユニット間の交流を図り、やむを得ない異動の場合にも関係性が保たれるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修、リーダー研修など順次受講計画を立て実施している。管理者は他の研修に関する情報提供についても積極的に行い参加を希望すれば、勤務を考慮して研修の機会を確保している。研修内容は伝達され報告書も作成されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などの機会を通して情報交換に努めている。また地域の他事業所や関連施設と相互訪問を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と一緒にホームに見学に来てもらったり、体験入居の利用などを通してホームや職員に馴染んでもらい、本人が安心して納得した上でサービスが利用できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から学ぶ姿勢を持ち、食事の下ごしらえや生活の知恵を教えてもらうなど、お互いが協働して生活している自然な姿が見られる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で、利用者一人ひとりの希望や意向を確認している。思いを表わせない利用者には言葉や表情、態度などから意向を把握して、希望にそった支援ができるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成の流れを全職員が意識し、日頃の関わりの中で利用者の意向や家族の希望などを聞き、センター方式などの様々な様式を活用しながら計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6か月ごとに見直されている。また毎月モニタリングによる評価を行い、随時実情にそった計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして利用者の負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援がされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のほか、利用者の希望に応じたかかりつけ医の医療を継続して受けられるよう配慮されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望に応じて重度化した場合や終末期のあり方について、看取り介護指針を示して説明を行い医師らとともに個別に対応できるよう体制を整えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員からの言葉かけや介護する上での対応について、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような場面は見当たらない。また個人情報についても適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調やこれまでの生活スタイルに応じた個々のペースを大切にしており、利用者は思い思いに過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好き嫌いを把握して献立に反映させている。食事中も利用者の様子を見ながらゆっくり楽しめるよう介助や支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する曜日、時間に入浴できるよう配慮している。また入浴剤や菖蒲湯、ハーブ湯など入浴を楽しむ工夫がされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意分野での役割や特技を活かす場面設定を行っている。毎朝自発的に玄関先の掃除を行うなどの利用者がおられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の散歩や商店への買い物、外食など希望に応じた外出支援がされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の行動に留意して見守りに徹し、鍵をかけないケアを実践している。また緊急時に迅速に対応できるよう捜索マニュアルも作成されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと年2回避難訓練と消火訓練を行っている。また地震・災害時のマニュアルも作成され非常事態に対する備えができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養については各利用者の摂取量が記録されている。しかし、水分については1日の必要量は摂取されているが、記録ができていない。	○	水分摂取量の把握は利用者の健康管理面でも重要であることから1日の摂取量の記録をとることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や室内装飾は花を植えるなどして季節感を出している。また換気も行われており、気になるにおいや不快な音もなく心地よい共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の生活スタイルや趣味に応じた写真や習字が持ち込まれ、その人の心地よさに配慮した居室づくりが行われている。		